NRU
国労せんだい
No．2634
2012年8月5日
発行責任者 大沼　元
編集責任者 武田 昌仙

幹線で放射能汚染物質大量放置

砂・塵埃　産廃業者引き取り拒否

関係者へ注意喚起なし

新幹線総合車両センター内に所在する東北工機整備（株）の詰所脇にある廃棄物置き場に高い値を示す放射能を含む物質が長期間放置されていることがわかった。これは関係者が「一年以上前から産業廃棄物処理業者に引き取りを拒否された砂や塵埃が大量に放置されているため調査を願う」と仙総支部関係者に依頼し、同支部が放射線量を測定し明らかになったもの。

6月21日、調査依頼を受けた支部関係者が現場に出向き、鉄スキット（写真）26個分の袋に入れられていた「砂・塵埃」が放置されていたのを確認。

「砂」の上に2台の線量計を置いて放射線量（空間線量）を測定したところ、それぞれ5・47μSv／hと5・49μSv／hという高い値を示したという。

当日支部は幹総総務科に事実確認を求めたが、「実態を把握しておらず確認し後日回答する」と述べるにとどまった。

6月21日、再度連絡すると「そのような砂を確認したので早急に移動を指示した」と回答があったが、放射能汚染された砂や塵埃に触れる作業をしているJRとグループ社員への注意喚起の求めに対しては、「砂を袋に集めた結果線量が高くなった。集めなければ高くならないはず。注意喚起は検討するが、袋を運搬する工機整備会社だけで十分と考える」と回答したという。

6月22日にスキット20個分は「ガス保管庫」に移動されたが残りは放置されたままであり、6月26日の総務科への連絡時には、「事象を大げさにすると職場が混乱するので気を付けてもらいたい」と事象の隠蔽とも取れる発言をするなど、JRとG社員の健康や安全を全く無視したものであった。

7月2日にも残った砂の移動と線量の測定を総務科に求めたが、「測定は支社の了解がでないため難しい。今後は組合の測定結果を教えてもらえないか」という始末。現場の対応と合せ、仙台支社の「人命・安全軽視」の無責任な姿勢があらためて明らかになったと言える。また7月5日、残りの砂がガス保管庫に詰め込まれたが、「今後も毎日砂と塵埃は排出され続けるため根本解決には至らない」と関係者は述べている。

砂・塵埃はスキットと呼ばれる鉄製ゴミ箱の中に袋詰めで放置されていた（大きさは約800×1000×700㎜）

砂・塵埃はどこから発生？

Q 汚染された砂や塵埃はどこから発生したものなのか？

A 車両の下部を覆っている「塞ぎ板」という箇所に溜まったもの。新幹線の車体の下部は雪などの侵入を防ぐ目的で板で囲っている。ただし車両の検査時には取り外さなければならず、その際に板の内側に溜まっていた砂・塵埃を掻き集め袋に詰めて産廃業者に引き取らせていた。

Q どうして砂・塵埃が汚染されているのか？

A 詳しくはわからない。だが放射能汚染された地区を通っているからというのが一般的な見方だ。

Q どうして産廃業者は砂の引き取りを拒否したのか？

A 業者は何でも引き取る訳ではなく環境省が一定の基準を設けている。8千Bq／Kg（ベクレル＝物質1kgに含まれる放射能そのものの量）を超える廃棄物は埋め立て処分ができないため、業者は一旦引き取ったものの、測定した結果により幹総に戻されたとされている。

執行部と支部代表者が確認

幹総の放射能問題については、地方執行委員会ならびに各支部代表者会議において議論され、支部代表者会議では仙総支部庄司委員長より、「支社を通じ幹総への指導を求める」地本への要請書の経過説明が行われた。会議では地本業務部が中心となって会社に改善を求める「申」を提出することを全体で確認した。

会社は放射能に対する認識を改めよ

編集長の眼

▼東日本会社は「飯山線大根原踏切事故の対策が活かされていない」とし、その対応のまずさ（踏切鳴動時の対応関係者の取扱いがルール違反等）をクローズアップしている▼だがそもそも大根原踏切が故障した一因には老朽化したケーブル等設備の更新がされてこなかったためとの専門家の見方もある▼会社は「ドル箱」であり大動脈である新幹線を優先するあまり、地方の在来線を粗末に扱ってきたツケが回ってきたという危機意識に立つことが可能か否か▼末端の細胞や目に付きにくい箇所の綻びが、ついには中枢部を侵すといのは人体に限ったことではないだろう▼安全に対する地方軽視が会社の根幹を揺るがしかねない▼加えて安全問題は「線路上」に限られたことではないということだ。一般公衆や第三者への対応は驚くべき素早さで対応するものの、JRと関連会社社員への対応はこれまた驚愕の「遅さ」を見せる。同じ「安全問題」なのに。アスベストしかり、放射能しかり▼国や地方自治体の基準を盾に線量測定すら行わないその姿勢は安全軽視・人命軽視の象徴といえないか。違うというならばまず会社が線量を計測しよう。国労だけではない。全ての働くものがそれを望んでいる。

7・21　国労東日本婦人部学習会（松島）
7・17　全国工務協定期委員会（松島）
7・16　第11執行委員会・第3回闘争委員会
7・7　さよなら原発10万人集会（代々木公園）
7/9　第17回仙台運転協議会定期委員会
7/8　仙台家族会交流会（郡山）

核兵器廃絶と平和を求め

原水禁福島からスタート

猛暑の中会場を埋め尽くした参加者

7月28日、原水爆禁止世界大会が、昨年の東京電力福島第二原発事故からいまだ収束状態が見えない福島で開催された。

会場となった福島県教育会館には全国からで１０５０人が参加し、地方本部では福島県支部はもとより宮城県支部からも組合員が参加した。

福島での開催は原発事故を受けて開催した昨年に続いて2回目であり、広島大会（8月4日～6日）、長崎大会（8月7日～9日）へと続く。

主催者を代表し川野浩一大会実行委員長（原水禁議長）は「福島原発事故の原因究明もなされず安全の担保がない中での野田政権による原発再稼働は無責任極まりない。二度と悲惨な原発事故が起きないよう全ての原発を止めるしかない」と呼びかけた。

参加者らは、「ノーモア・ヒロシマ、ノーモア・ナガサキ、ノーモア・フクシマは被爆国日本の世界への訴えであり、核兵器と原発は不要。平和で安心して暮らせる福島・日本をつくるため、脱原発への運動を強化しよう」というアピールを全体で採択。

大会後参加者は福島市内をデモ行進し、「原発のない福島を」「原発に依存しない社会を」などと広く市民に訴えた。

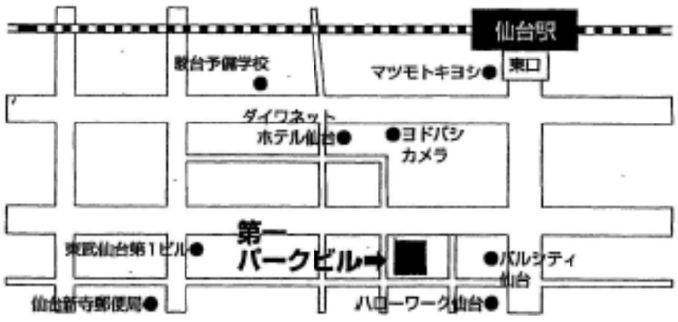
交運共済から 事務所移転のお知らせ

交運共済仙台事業部は、事務所移転のため6月25日より、下記にて業務を行います。

■仙台事業部　〒983－0852　仙台市宮城野区榴岡４丁目５－２４第一パークビル９Ｆ９０１号室

電話　NTT　022－295－1801　JR　031－3996

※NTT・JRともFAX共用です



退職のお知らせ

6月30日付

○退職

中嶌　久さん
仙総組立　退職

○エルダー退職

加藤　守孝さん
ＴＫＫ利府

川口　芳則さん
ビルティック郡山

面川　高美さん
テムズ郡山

長い間お疲れ様でした

放射能対策委員会

福島県支部が立上げ

福島県支部（小檜山委員長）は5月16日、放射能対策委員会を発足させた。これは放射能汚染と労働環境改善の取組みの一環として、遅々として進まない会社との交渉や除染対策に対して組織的に運動の組立を模索する目的で設置したもの。

具体的には、①定期的な調査の継続（定点観測・調査不足地域の再調査・会社にインパクトのある測定値）②運動課題と方向性（利用者の声を代弁・会社内運動に留まらず自治体・共闘組織・政党など市民レベルの運動の広がりを・自治体の除染計画に対してJR等企業の敷地の除染はどう進められるのか）を柱に現在は第2回調査を実施中という。

各大会日程

東日本本部大会
9月7日（金）13時30分～8日（土）13時
盛岡市　つなぎ温泉 ホテル紫苑

地方大会　9月22日（土）13時～23日（日）13時
松島町　ホテル大観荘

支部代表者会議の議論から

宮城

▼7月7日第4回の再雇用・エルダー嘱託社員交流会を開催。劣悪な労働条件と作業環境が噴出▼JR病院のある場所で一定数値の放射線量が測定されたという

福島

▼放射能対策委員会を設置。交渉で穴があかない場合は市民レベルの訴えも必要。7月20日に第2回委員会

山形

▼踏切鳴動時の対応策が不十分。会社も返答に窮している▼福島県境の栗子峠は連続雨量１８０ミリで通行止。道路維持管理センターでは「通行するなら事故責任」だが、JRは災害警備であり行ってもらうという姿勢で平行線

仙総

▼放射能を含む廃棄物が大量に見つかった。ガス保管庫を空にして一時移動させたが日々発生し続けているものであり根本的な対策が必要（詳細一面）▼エルダー組合員交流会を8月目途に予定

郡工

▼渡辺氏の配転。支部は強制出向・配転反対の位置付け▼外注化反対だが、小牛田運輸区―全面外注化であれば佐藤氏を郡山に返せ▼外注化反対は「偽装請負問題」で闘うことも検討。そのための学習会を9月に準備▼敷地内にホットスポット。アスベストと同じく息の長い闘い―風化を危惧

自動車

▼畑山・岩崎両氏が青森へ。他労組・会社が嫌がって「希望通り」の異動▼深夜手当Bを1年遡り支給させた▼七北田・白沢営業所は東北各地から社員が集まりある意味新鮮だ▼バス社員は低賃金。独自の賃金交渉が必要▼ツアーバス事故により国交省から指導。一人乗務の制限が６００キロから４００キロに。時間も制限された。

仲間の異動

◆出向

舟涛　修さん
仙台工事区→仙建工業（簡苦）

渡辺　淳一さん
貨物郡山車両所→東北ロジスティクス宮城野（簡苦）

鈴木　芳紀さん
仙台総鉄部→東北ロジスティクス東仙台

安部　寿昭さん
仙台保技セ→日本線路技術

伊藤　純さん
テクノサービス→宮城野運輸区（戻り）

◆一般異動

佐藤　仁さん
本塩釜駅→塩釜駅

◆バス東北

畑山　豊男さん
仙台支店→大湊支店

岩崎　宏さん
七北田支店→青森支店